



京都社会人大学校

北近畿校通信

第63号 2025年7月

北近畿校運営委員会

事務局発行

☎080-2511-1751

9月～12月の会場案内

【時事問題講座】

- 9月9日 市民交流プラザふくちやま3-2
- 10月14日 市民交流プラザふくちやま3-2
- 11月11日 市民交流プラザふくちやまギャラリー
- 12月9日 市民交流プラザふくちやま4-1

【寄席芸鑑賞講座】

- 9月11日 三段池武道館1階会議室
- 10月9日 市民交流プラザふくちやま交流スペース
- 11月13日 未定 — 確定次第案内
- 12月11日 特別例会繁昌亭(別途案内)

【写真講座】

- 9月16日 市民交流プラザふくちやまアトリエ
- 10月21日 吹風舎(予定・別途案内)
- 11月18日 長安寺憩いの家(予定・別途案内)
- 12月16日 市民交流プラザふくちやま3-1



9月17日 歴史講座・郷土史は、

講師:丹後郷土資料館

館長・岸岡貴英さん

テーマ:京都府北部の古墳について

に変更します。

【歴史講座】

- 9月17日 市民交流プラザふくちやま4-1
- 10月15日 市民交流プラザふくちやま3-2
- 11月19日 市民交流プラザふくちやま4-1
- 12月17日 市民交流プラザふくちやま3-2

【北近畿探訪講座】

- 9月24日 市民交流プラザふくちやまアトリエ
- 10月22日 碓高原牧場(別途案内)
- 11月28日(金)六人部現地開催(別途案内)
- 12月10日 長田野工業団内企業訪問(別途案内)

【漢字学講座】

- 9月25日 市民交流プラザふくちやま3-2
- 10月23日 市民交流プラザふくちやま3-2
- 11月27日 市民交流プラザふくちやま3-2
- 12月25日 市民交流プラザふくちやま3-2

猛暑乗り切り、9月、元気にお会いしましょう!

6月中に梅雨が明け、夏日・猛暑日が続いています。雨が少なく、農作物の心配も一。秋のお米の収穫も心配されています。早くから熱中症対策が言われてきましたが、これが9月10月と続くのかと思うと、うんざりしますね。どうか十分気を付けてお過ごしください。

8月はお休み、9月から後半の講座が始まります。前半でお休みされた回がある方は、ぜひ後半に登録講座以外の興味関心のある講座で振替え受講してみてください。新しい世界に触れることができるかも。(資料準備などの都合上、振替え受講はできるだけ事前に連絡ください。)

6月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したものです。ご了承ください)

◆時事問題講座 6月10日

「南海トラフ地震について」 講師：深畑幸俊氏

近年大地震が多数発生している中、皆さん大変興味のあるテーマで、ワクワクドキドキした気持ちで講義に聞き入っていました。

南海トラフ地震の歴史に始まり、日本列島周辺で発生する地震にはプレート境界（海溝型）地震と内陸地震があり、それぞれの発生メカニズムを（専門的で理解におぼつかないところもありましたが）わかりやすく説明頂きました。

最後に資料で、

○南海トラフ地震は100～200年おきに繰り返し発生してきた。今後数十年のうちにまた発生すると考えられるが、いつ発生するかを高い精度で予測することは現段階では不可能である。

○南海トラフ地震が発生すると西日本の太平洋岸を中心に大きな被害が発生するが、福知山など近畿地方北部での被害は限定的であろう。

○近畿地方北部でも、大きな内部地震が近くで発生すれば甚大な被害が発生する。特に南海トラフ地震前には、近畿地方で内陸地震が発生しやすくなるので十分な警戒が必要である。

以上のように、本日の講義内容を簡潔に分かりやすくまとめていただきました。受講生の皆さん、腹落ちされた表情でした。

難しかったです。地震予測などはデーターを分析するしか方法はないように思いました。日頃の備えがやはり大切なのでしょうね。活発な地震活動が集中している日本列島ではやはり原発は廃止してほしいものです。

昭和東南海地震：1944年12月7日、M7.9



<https://www.yomiuri.co.jp/national/20231207-OYT1T50085/>

東海～紀伊半島を中心
死者・行方不明：1223人

理科

動く大きなプレートの上で生活しているのですね。ありを連想しました。



◆寄席芸鑑賞講座 6月12日

「講談を学び楽しむ」 講師：旭堂南龍氏

先ずは、講談と落語と浪曲の違いについて、お話頂きました。講談は、歴史的な物語を読み聞かせるもの（識字率が低かったため）。落語は、主に会話劇で、笑いを重視するもの。浪曲は、講談から派生したもので、節をつけ三味線の伴奏に合わせて情感豊かに語るもの。

この事を分かり易く「桃太郎」の話を例に講談調に、浪曲チックに、落語っぽく語り分けて頂きました。（なるほど！）講談と言えば張り扇で釈台をバンバン叩くイメージがありますが、現在は関西の方では、あまり叩かず、関東の方がよく使われるかなあ…という感じだそうです。

そして「女白波黒雲の辰」（おんなしらなみくろくものたつ）というお話を実演して頂きました。盗っ人ではあるが人情味のある辰に、大岡越前は、「人の命を取るのが、裁きではない。人の命を救うのも裁きである。」と辰に尼になることを勧め、その後人の為になる人生を送ることになった。という話。皆さんまるで時代劇を観ている様だと聞き入っておられました。後半は「紀伊国屋文左衛門 宝の入り船」一貧乏業平（びんぼうなりひら）と呼ばれていた紀伊国屋文左衛門の一発逆転劇。今回は二つも実演して頂いて贅沢な講義でした。

講談、落語、浪曲の由来よくわかった。二つの講談は見事！贅沢な時間をありがとうございました。素晴らしかったです。

講談と落語の違いを教えていただき本格的なお話を聞き満足なひと時でした。落語もそうですがいつも思うのですが長い話を暗記する力に脱帽です。三扇さんの司会も楽しんでいます。

講談、落語、浪曲とそれぞれの違いを知り（わかり）、聞く際の楽しみ方が豊かになっているように感じた。

◆写真講座 6月17日

「スピード感あふれるドックラン」 講師：四方智基氏

梅雨時期で天気の手配をしていましたが、晴・暑い！ 綾部の山中のドッグスクールで、元気に走る犬の撮影会です。昨年の犬モデル？の撮影とはスピードが大違い。ジャンプやトンネル、はしご？のぼりなど、障害物競争のような競技会があるようで、その演技をしてくれる犬の撮影は、一瞬の闘いです。事前にシャッタースピードや明るさとの関係など講義を受け撮影に臨みましたが、最初はアッという間に駆け抜ける犬に「えっ！ はっやー」… 連写機能を使ったり、犬の動きをある程度予測することもポイント、待ち構える場所に悩みながらの撮影会でした。



犬の動きが早くてなかなか追いつけなかったです。生き物はむずかしい。

タイミングをつかむにはあと 10 週くらいは走ってくれないと！

スピードもさることながら、犬がとてもきれいな黒色をしていたので、その色つやが写せたらいいな、と思いましたが、早すぎて早すぎて…



ダブルスタンダードというか、近代（現代）史こそ、今の私たちの思いの中いろいろな考えを巡らせるものになると思うが、「認識」の違いの中で「私たち」はどうか、議論をいろんな角度から知って「自分」を確立するしかないのかと思わされる、そんな意味でも今日のお話は刺激でした。



初めて聞くことがほとんどで興味深かった。学者さんレベルでは合意していることに政府間交渉が入り、全採用にならず、それがメディアレベルになると着目点の違いによりややずれた方向に となっていくらしいことになるほどなあと考えた。メディアの論調に注意深くあれ…ですかね。

◆歴史講座 6月18日

「日・中・韓の歴史認識と『対話』の共同作業」

講師：井口和起氏

前回の講義も難しかったが、今回も難しい。

日本、中国、韓国と少なくとも 20 世紀に入り続いた戦争に対する認識が違ふと共同のテーマになりうるのかどうか。

日韓で言えば、2002 年から 2010 年の間に日韓歴史共同研究が行われ、2005 年 6 月と 2010 年 3 月には報告書が公開されている。ただし、政府間の歴史認識問題の解決という政治目的を有すると委員等選定に政治的意図が入る。両国委員のほとんどは実証研究専門の歴史学者であり、歴史認識問題の専門家ではないので、その到達点に至るには限界がある。歴史問題と歴史認識問題は違ふということ。

今後は民間の共同研究をどう作っていくかが大切になるだろう。ただ、学者が自由に議論するためにはその環境の構築が必要であるという。最近の日本学術会議のことをふと思った。政治的意図を排した自由とはどうしたらよいのかも考えさせられる講義でした。

◆北近畿探訪講座 6月23日

「フィールドワーク/

三和のPT境界線(古生代・中生代の境目)を歩く」

講師:小滝篤夫氏

6月の講座はフィールドワークで、三和のPT境界線を訪ねました。1週間前の雨予報もくつがえり、当日はみなさんの熱意のせいか晴れてくれました。

2.5億年前の古生代(P)と中生代(T)の境の時期に、海の生物の90%以上が絶滅したそうですが、その痕跡が残る場へ足を運びました。そこは林道開設により削られた山際から岩が露頭した

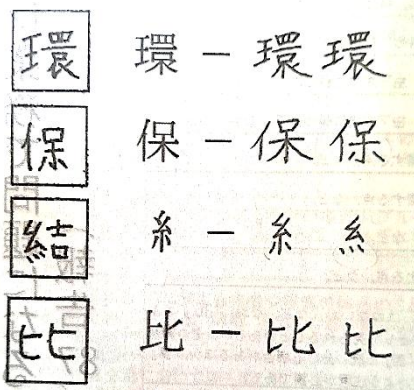
現場ですが、今も多くの研究者が来られているということです。私たちから見れば岩の崖にしか見えませんが、採集した岩を顕微鏡で測定すると放散虫や花粉などの数の違いがくっきりと現れ、この場が境目であることが分かるそうです。この様な近くの場所で大昔の出来事を知ることができるなんて、すごいですね。

三和町にこんなすごいものが残っていたなんて。夜久野町も併せてプラタモリに来てもらおう。

三和町にこんなに貴重な地層があるとは驚きです。とても楽しい時間を過ごさせていただきました。小滝先生には専門的なお話をかみ砕いて説明していただき感謝、感謝です。



1億2400万年前の生物の大絶滅が起こったこと示しているPT境界線を始めてみました、地球に歴史に触れる貴重な半日となりました。先生はじめ地元自治会長様の詳しい説明で一層よく理解できました。



◆漢字学講座 6月24日

「漢字の形と書き方」

講師:久保裕之氏

さて、今月の漢字当てクイズの正解は「雨」「雷はどう書いたんですか?」という質問に答えて頂きました。「申」の象形文字が使われており、「かみなり」「神」の示偏は、神様に御供え物をする台の象形。それから、正体と異体について学びました。正体とは、標準とされた字体。例えば「島」の異体は、山の部分が偏になった「嶋」冠になった「嶋」の様に意味は同じでも形が違うもの。又は「涙」の異体は「泪」の様に造りが違うもの。その他にも、正字と俗字、略字など。

まあ難しいことはさて置き、「間違いさがし」と言う事で問題を出して貰いました。皆さん色々考えて、「保」の字の口の下部分は、カタカナの「ホ」では間違いではないのか。「結」の糸偏の下部分は「小」でないと、点々三つでは間違いでないか? 「比」は、ハネが無いと間違いではないか? 等々…。しかし、結果はどれも正解○。トメ、ハネ、ハラは、筆記用具によっても異なるし、美しさの追求の結果であって正しさの追求ではない。筆順についてもそう。手書きと、印刷活字の字体も異なる物が多いし、筆順についても美しく書くための方法で、絶対的な物ではない(学校で統一して教える際の一つの方法として作られた物にすぎない)。現に、日本、台湾、中国で、筆順の異なる物も多い。トメ、ハネについても絶対的なものは存在しない。等。

まとめとして、「漢字とは、曖昧な物」ということなのでしょう。受講生の皆さん、とても熱心で授業終わった後も先生にたくさん質問されていました。

自分が子どもの頃、一生懸命覚えた書き順、とめ、はね、はらい etc 絶対的なものではない。というとても新しい発見、考え方を学べ、これからの生活がどうなっていくのか、かなりこだわって生きてきた自分と向き合う時間でした。

今もまだモヤモヤは残りますが、曖昧だ、と言う事が分かりました。